

教科名〔 芸術 〕

科目名	単位数	学年・組	担当者名
書道	2単位	2年1・2・3・4組	＊

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	書道の創造的な諸活動を通して書を愛好する心情を育てる 日本や中国の書の文化や伝統についての理解を深める。 感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞力を伸ばす。
使用教科書・副教材等	大阪書籍『高校書道 』 プリント教材

2 学習計画及び評価法等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 1.学習活動の特記事項 2.副教材の使用など	評価の観点のポイント 審査範囲	関心・意欲・態度	の工夫	芸術的な感受や表現	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
第1学期	和紙20枚を染める（技法4種） 漢字仮名混じり文創作 『現代詩を書こう』 ～今を生きる自分自身の表現～ ・書美の要素を再認識するための研究 ・紙面構成のバリエーション ・自作染紙に創作 作品裏打ち表具 パネル製作	4 ・ 5	・自分で紙を染めることで作品の創作意欲を高める。 ・テーマごとに試行錯誤を大胆におこない自分の表現力の幅を広げることをめざす。 ・自己の、表現意図にもとづき表現する。 ・さまざまな紙面構成があることを理解し、作品効果の違いを知る。自分なりの個性を打ち出すことができるように工夫し取り組む。 ・協力しあって、作品の裏打ち表具をし、くらしの中に書を生かす簡単な表装技術を身につける。	プリント 作品例展示 全作品展示	第1学期 中間 考 査	○		○	○	○
	仮名創作 「百人一首創作うちわをつくらう」 ・歌を選び必要事項を原稿用紙に書く ・百人一首基本作品 ・ひらがな単体創作 ・ひらがな連綿創作 ・変体仮名を使った創作 ・散らし書き(タテ,ヨコ2種類) ・うちわ型創作 仮名臨書 「高野切第一種」 ペン字による仮名	5 ・ 6 ・ 7 ・ 8	・仮名の執筆法,用筆法を確実に身に付ける。 ・気持ちよく取り組める好きな和歌を選ぶ。 ・仮名特有のリズムを理解しているか復習。 ・段階を追って創作力を高めていく。 ・各自の個性を打ち出す作品になるよう工夫をかさね、うちわ構成で表現することで作る喜びと達成感を味わう。 ・古典の魅力に気付き、自己の表現技術を生かしていねいに臨書する。 ・仮名の字源、連綿など、ペン字でも練習することで知識と理解を確かなものにする。	プリント 百人一首テキスト 各種料紙 プリント うちわ仕立て 発注		○	○	○	○	○
					第1学期 期 末 考 査	○		○	○	○

第2学期	・創作うちわ展示ラベルを書く 第33回書道コンクール 出品作品を書く ・始平公造像記 ・顔氏家廟碑 ・賢愚経 ・南川県墓誌 ・集王聖教序 ・祭姪稿 等	9・10	・文化の集いに出展する、うちわ作品解説の、展示ラベルを書く。 ・工夫と練習の積み重ねが作品に反映するよう努力する。 ・古典の特徴をとらえて表現する。 ・意欲的にコンクール出品作品に取り組む。	完成うちわは、文化の集いに展示 コンクール出品	第2学期中間考査	○			
	漢字のルーツを知ろう ・甲骨文字 ・金文 篆書の学習 ・篆書の基本用筆、特徴 ・泰山刻石 ・清代篆書 ・姓名篆書体検字プリント ・篆書で姓名を書く 篆刻「姓名印を彫る」	10・11・12	・甲骨文、金文を学び、漢字の字源と歴史的背景や意義を理解する。 ・甲骨→金文→小篆の書体成立の流れに興味をもち、書表現の多様性に気づく。 ・篆書の基本用筆、特徴を理解し、書く。 ・古典の魅力に気付き、表現、臨書する。 ・書体辞典の使い方を理解し正確に検字する。 ・手順を理解し篆刻することで、姓名への愛着を深め、いっそう作品制作の意欲を高める。	プリント 手順プリント	第2学期期末考査	○	○	○	○
第3学期	第59回大阪府高等学校書道展鑑賞レポート(天王寺：大阪市立美術館) ・文字を使わず点と線でイメージを表現しよう。 「エネルギー・激・強」 「デリケート・静・弱」 大字一字作品 ・淡墨 ・濃墨 ・作品批評会 まとめプリント	1・2・3	・美術館に出かけ、興味を持って鑑賞し視野を広げる。 ・文字の意味に頼らない純粹表現ができるよう多様な線質、点の筆触にこだわって表現活動を試みる。 ・体全体が筆と一体化し、スケールの大きな筆の動きができるよう思い切って書く。 ・気持ちにかなった1字を選び、これまでに身につけた総合的な表現力を発揮して書く。 ・次の製作のステップになるよう、プラス面マイナス面の両視点から批評し合うことで、仲間を評価し励ます力をつける。	鑑賞レポート まとめプリント	学年末考査	○	○	○	○

【1・2・3学期における課題・提出物等】

作品は基本的に毎時提出。合格制。
 練習作品とプリントもすべてファイルにとじ、各考査前に提出。
 2学期に書道コンクール出品。鑑賞レポート。

【1・2・3学期における評価方法】

毎時の提出作品。各考査前に提出のファイル。プリント記入状況。授業時の取り組み状況の観察。自己評価表。感想文。等これらを総合的に評価する。